

練習に汗を流す八学光星ナイン
 22日、弘前はるか夢



青森北

青森大会

きょう準決勝

青森山田



第107回全国高校野球選手権青森大会第8日は23日、弘前はるか夢球場で準決勝2試合を行う。青森県内の高校球児による熱戦も残り2日。阪神甲子園球場での出場権を懸け、戦いはより激しさを増す。

4強入りしたのは、大会2連覇を含め、4季連続の甲子園を目指す青森山田、2021年以来3度目の優勝を狙う弘学聖愛、47年ぶりの優勝へと突き進む。

む青森北、2年ぶりの夏制覇に燃える八学光星。私立3校、公立1校で、春季県大会と同じ顔触れとなった。

4チームは22日、同球場でそれぞれ練習。八学光星は、守備を中心に軽めの調整を行った。

23日は午前10時から「青森山田―弘学聖愛」、午後0時半から「青森北―八学光星」を行う予定。24日午前10時に同球場で行われる決勝に進むのは、果たしてどのチームか。戦いぶりに注目だ。(小嶋嘉文)

弘学聖愛

八学光星

きょうの試合

▽準決勝
 【弘前はるか夢球場】
 青森山田―弘学聖愛(10:00)
 青森北―八学光星(12:30)

準決勝進出校のチーム成績

※本＝本塁打、三＝三塁打、二＝二塁打

チーム	試合数	打数	安打	長打			打率	打点	三振	四死球	犠打飛	盗塁	失策	併殺	残塁	総得点	総失点
				本	三	二											
青森山田	3	80	29	2	1	6	.362	20	11	11	8	3	3	4	19	22	4
弘学聖愛	3	81	26	1	3	5	.320	21	17	13	5	15	2	2	11	25	8
青森北	3	101	34	0	2	4	.336	18	16	19	9	3	4	2	30	21	5
八学光星	3	84	30	0		1	.357	21	10	17	13	20	2	1	28	25	2

準決勝見どころ

昨夏決勝カード、激戦必至

昨夏決勝の同一カード。今大会はここまで、青森山田は弘前東、弘学聖愛は工大一の接戦をそれぞれものにするなど両チームとも勝負強さが光っており、1点が試合の展開を大きく左右する激戦が予想される。青森山田は、4チーム中

トップの打率3割6分2厘をマーク。先頭打者の佐藤洸史郎、葛西陽永らが調子を上げており、出塁率が高い。下位打線から得点につながるケースも多く、どこからでも得点を奪える打力で攻め立てたい。投手陣は、主戦の下山大

昂、厩谷朔ノ助、菊池統磨ら実力者がそろった。決してビッグイニングは作らせず、最少失点で勝利に結び付ける。対する弘学聖愛は、打率3割2分0厘。好機には澤田蓮、一戸淳弥らの長打で確実に得点しており、効率が

(小嶋嘉文)

試合巧者に「公立の雄」挑む

3試合連続ゴールド勝ちの八学光星に、「公立の雄」青森北が挑む構図だ。共に打線が好調でそれぞれ投手陣がどこまで抑え込めるかがポイント。ただ、ここま

で2失点と安定した守備を誇る八学光星が優位か。春3位の青森北は、初戦主戦は神騎士。準々決勝

の2回戦で4安打だったのが、その後の2試合は、桁安打を記録。特に、準々決勝では序盤に壮絶な打撃戦となったが、蝦名りく、小野晟雅の長打を含め17本を放つなど、攻撃力は大会トップクラスだ。

で早々に5点を失ったが、以降は被安打2とした、高い修正力が光る。八学光星は、試合を重ねる度に強さが増している印象。春季東北地区大会で復調した打線は、今大会でも勢いを継続しており、どこからでも得点できる自力がある。準々決勝では相手投手のくせを見抜き、積極的な走塁で試合を支配するなど試合巧者ぶりも健在だ。

マウンドには、主戦の佐藤悠貴ら4人が立ち、見事な投球で相手に付け入る隙を与えない。春にけがでベンチ外となった柴田煌輝も満塁の危機を乗り切る強さを見せ、投手陣に厚みが出てきた。

青森北・工藤公治監督 私立の強豪校相手に「やれるんだ」と示すためにも、4強入りできて良かった。八学光星は全国区のチームで、簡単には勝てない。戦い方をもう一度確認して、しっかりと食らいつきたい。

青森北・佐藤璃玖主将 八学光星には、春にエラーが原因で敗れた。攻守で一球一球丁寧なプレーを心掛け、守備からリズムを作ってリベンジをしたい。甲子園出場へ向け、ベンチもスタンドも一丸となって戦う。

八学光星・仲井宗基監督 厳しい暑さで、集中力を欠いてしまうような場面がどうしても出てくる。対策を万全とした上で、相手チームより一生懸命に、ひたむきにプレーすることで勝利をつかみ取りたい。

八学光星・山上春人主将 相手の弱点をあぶり出して、そこを突けるようにしていきたい。チーム全員が、甲子園に向かっていくという気持ちが強くなっている。気持ちは強く、頭は冷静に、一戦一戦に臨みたい。

青森山田・兜森崇朗監督 チーム状態は悪くはないが、周りの雰囲気から右往左往している。いつも通りの野球をしていきたい。例年になく暑く、へばっている気もする。ここからは体力勝負だと思っている。

青森山田・菊池伊真主将 疲労を抜いて、相手のデータを分析する。バッターは勝負どころで決め切ることができるようになることが必要だ。守備では無失点で勝てるように、基本的な部分から見直していきたい。

弘学聖愛・原田一範監督 選手たちは昨秋と今春に敗れた青森山田に勝って優勝するために、これまで練習をひたむきにやってきた。その活躍に期待している。気持ちで負けないように意地を見せてほしい。

弘学聖愛・田崎光太郎主将 ピンチでもチャンスでも野球を楽しみたい。青森山田には、いつまでも負けていけないという悔しさや対抗心を持っている。経験値は及ばないが、1点へのこだわりを大事にしたい。